

ふじのくにを訪ねて

～柿田川と博物館視察報告 1 柿田川～

伴 浩治

1. はじめに

12月3～4日、静岡県立ふじのくに地球環境史ミュージアムを視察した。



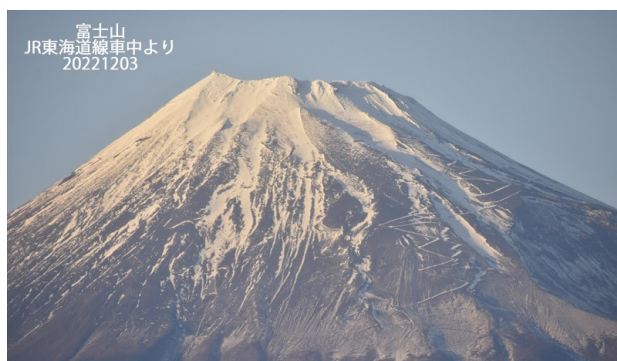
清水町立柿田川公園

自然環境保全京都府ネットワークにとって、自然史博物館設立がとりあえずのゴールである。そのためのメイン事業が自然史系博物館視察だ。これまでに、大阪市立自然史博物館、滋賀県立琵琶湖博物館、兵庫県立人と自然の博物館を視察した。4回目は、静岡県立ふじのくに地球環境史ミュージアムである。交通費も馬鹿にならないので、博物館だけではもったいない。静岡県 of 自然の中でも第一級の柿田川も視察した。参加者は12名(うち1名は12/3のみ)。列車での参加7名、自家用車(2台)での参加5名だった。

今回も現地集合、現地解散である。筆者の行程は下記の通りである。「全国旅行支援」が使えたので、JCB 伏見支店に出向いて申し込んだ。けっこう面倒な割に制限も多く、ホテルのグレード

が少しアップした程度で費用もほとんど安くはなかった。

12月3日(土)07:51 京都発ひかり640号、09:57 三島着。連絡会前代表の狩野さんと出会った。いっしょに10:30発の路線バスで柿田川公園へ。11:50の集合時間まで1時間あったので、とりあえず「下見」。案内標識を頼りに、公園入口から反時計回りに第一展望台→第二展望台→湧水広場→舟付場→木製八つ橋→公園入口と一周する。写真やビデオの撮影をしながらちょうど1時間だった。合流してもう一度同じコースを回る。二巡目は竹門ネットワーク会長の説明付きなので、より深く観察することができた。



富士山：JR 東海道本線車窓より

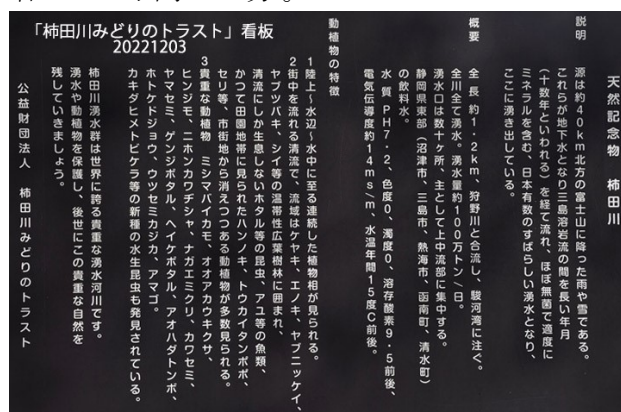
15時に1日目の予定が無事に終了。現地解散して、自家用車組は直接静岡市内の各ホテルへ。列車組は路線バスで三島駅まで戻り、東海道本線の普通列車(快速等はなかった)で約1時間で静岡駅へ(新幹線なら2駅)。途中、富士山の撮影で盛り上がる。他のお客さんは当然のことながら見向きもしない。以前、山梨県側から1合目～5合目の

生物・自然観察をしたことがある。今回同様、周囲の景観とは隔絶された孤高の O-Parts だと感じた。

各自ホテルにチェックイン。列車組は 18 時に再集合して、駅の新鮮な海の幸を堪能できる居酒屋で約 2 時間情報交換を行った。

12 月 4 日(日)は、静岡駅南口からタクシー乗り合わせでミュージアムへ。とにかく路線バスの便は非常に悪く、地元民はほとんど自家用車で来るそう。9:50 集合まで時間があつたので、建物の周りを一周してみた。静岡県立静岡南高校が統廃合され、空き家となった校舎を利用したリノベーションである。バブル崩壊後の苦肉の策ではあるが、ないよりはまし、というより上手に活用されていた。

16 時前に視察を終了し、タクシーを呼んで乗り合わせ静岡駅へ。筆者は静岡発 17:07 ひかり 519 号、18:37 京都着で 1 時間 30 分。



「柿田川みどりのトラスト」看板

2. 柿田川湧水群

Wikipedia から長めの引用：『静岡県駿東郡清水町を流れ狩野川に合流する一級河川。柿田川湧水群として名水百選に選定された。国の天然記念物にも

「地質鉱物」の枠で指定された。日本の秘境 100 選にも選定。柿田川公園の「わき間」からの湧水に源を発し南へ流下、長さはわずか 1200m、川幅は 30～50m。流水はほぼ全量が湧水から成り、これは雨水や雪解け水が、約 8500 年前の富士山噴火による三島溶岩流に浸透し、その先端部から湧き出たものである。清流で知られ、水温は季節を問わず 15℃ 前後。流量も年間を通してほぼ一定を保っている。かつては豊富な湧水を求めて工場が進出、排水のたれ流しにより水質が悪化し、魚も住めない状態になった。1970 年代には護岸のため、部分的に川縁がコンクリートに覆われるなどしたが、1975 年に住民による保護活動が始まった。1980 年代にかけて地元有志によるナショナルトラスト運動(柿田川みどりのトラスト)へと発展して自然環境を保全するための土地の買い上げ、工場の移転運動や清掃活動が行われ、カワセミ等も生息する環境が残された。現在もトラスト地の買い上げが続けられている。



カルガモとカイツブリ：柿田川本流

水中や岸辺には、以下のような動植物が生息している。

魚類、甲殻類：アユ、アマゴ、アユカケ、ウグイ、サワガニ、モクズガニ

鳥類：カワセミ、ヤマセミ、ユリカモメ、

コサギ、キセキレイ、ヒドリガモ
昆虫：ゲンジボタル、トンボ類
植物：ミシマバイカモ、ツリフネソウ』

多様な生物種の詳細は、文末資料
(13)(14)を参照されたい。

数十年前に、NHKのTVで紹介された番組を見た。ビデオを生物の授業で生徒たちにも見せた。ぜひ行きたいと思っていたので、ネットワークの役員会で「ふじのくに地球環境史ミュージアム」視察が議題になったときにすぐに提案した。

富士山に降った膨大な雨や雪が地下水となり、最短20年あまりで溶岩の末端の崖から突然湧き出す。現在はちょうど国道1号線のすぐ南側だが、以前は溶岩台地を削った谷筋が3本あって、もっと上流(北)側から湧き出していたそう。工場進出や市街化で埋め立てられたのだろうか。流量も以前に比べて特に春に大きく減少している。



「わき間」：第1展望台

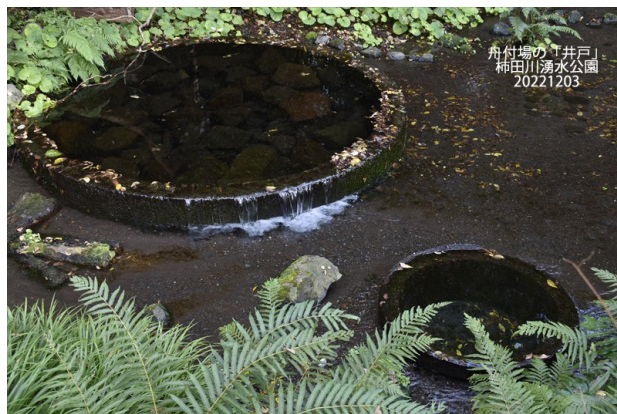
第一展望台(といっても急な階段を下る)の大小の湧水口「わき間」からは、無色透明な水が勢いよく流れ出している。湧水で川底の砂も動く。白い砂と黒

っぽい「砂」が混ざっている。以前この辺りは「ゴミ捨て場」だったそうで、黒い粒にはその当時の石炭殻などゴミの残骸が含まれる。

第二展望台も階段を下る。ここはかつて紡績工場の井戸があった。コンクリート製の丸い大きな枠の中から湧き出している。

公園の広場に戻ると左側に「貴船神社」の表札がある。京都貴船神社本宮の分社で、境内もお社も小さい。貴船神社は水の神様だが、「恋を祈る神社」でもあるそう。 (文末写真)

舟付場の井戸



舟付場(わき間)には、製紙会社の井戸の跡が大小2つある。その右側に続く水路に魚の群れが定位していた。お目当ての鮎が数百匹、婚姻色の出たオスやお腹がふくらんだメスだ。水温が下がらないので、12月になってもまだ産卵期なのだ。

宇治川では11月中旬で終わる。今季この落ち鮎をねらって最大1000羽のカワウの群れが飛来した。

柿田川を何度も訪れている竹門さんによると、この時期まで毎年産卵行動が見られるはずだが、今回のように産卵行動を見られないのはかえって珍しいとか。



産卵期のアユの群れ：舟付場

木製八つ橋では、柿田川の本流を川の水がとうとうと流れているのが見える。ところどころ低い「噴水」がある。人が湧出口に填まってしまうと、抜け出せなくなる落とし穴だ。トラストがオオカワジシャなどの外来植物を駆除するときに、事故が起きないように管を打ち込んで目印にしてあるそうだ。



わき間の「噴水」：柿田川本流

岸辺に2か所、これも違和感があるみずみずしい緑色の草が生えている。クレソン(オランダミズガラシ)を栽培しているのだ。柿田川の水辺は民間が買い取っている土地なので、こういうことも可能だそうだ。公園の北東にはお店も数軒ある。

本来ならば、自然の保護・保全は国の責任である。つまり日本国に税金を払っている人全体が行うべきものである。ところが、非常に残念かつ奇異なことに、この国では今回の東京オリンピックなどに見られるような露骨な利権の奪い合いや、USAに押しつけられるポンコツ兵器購入のための軍事費の増強が大手を振るっている。その一方で、本来日本に住んでいる人々のための医療や福祉に当てるべき消費税や復興税ですら別の用途に使われたりする。「自然」が二の次、三の次になってしまうようでは、民主国家失格だ。府立植物園整備計画も。ただし、下手に行政が絡むと問題がかえってややこしくなって良い方向へ行かない場合もある。

ちなみに、公園の谷すじを流れている細流に「湧水ではない」という掲示があった。間違っって飲む人がいるからだろう。

というわけで、例によって長めの報告第1弾終了。博物館視察の公式報告(案)として、当日の講演や見学、資料をまとめた文書を視察に参加したネットワーク役員に提示してある。個人としての報告は後日森の新聞に投稿予定である。

3. 参考とした書籍とインターネットサイト

- (1) 漆畑信昭 1991, 柿田川の自然, そしえて, ¥1800.
- (2) 柿田川生態系研究会 2010, 柿田川の自然 湧水河川を科学する, (株)ITSC 静岡学術出版事業部(古書). (川那部浩哉氏、竹門康弘氏の論文あり)
- (3) 土隆一, 八木洋行 2012, 湧水～富士山に消える 24 億トンの水の行方～しずおか文化新書 7 シリーズ富士山, Kindle 版, 静岡県文化財団¥380.
- (4) 藤澤浩子 2011, 自然保護分野の市民活動の研究: 三浦半島・福島・天神崎・柿田川・草津の事例から, 芙蓉書房出版 ¥3080.
- (5) 清水町・柿田川関連情報
<http://www.town.shimizu.shizuoka.jp/category10017815.html>
- (6) 柿田川公園リーフレット.
<http://www.town.shimizu.shizuoka.jp/content/300126661.pdf>
- (7) 清水町 柿田川公園(日本語版)2pp.
<http://www.town.shimizu.shizuoka.jp/toshi/toshi00054.html>
- (8) 清水町 柿田川おもしろ博物館
<http://www.town.shimizu.shizuoka.jp/toshi/toshi00054.html>
- (9) 公益財団法人柿田川みどりのトラスト
<http://www4.tokai.or.jp/kakita.rv-trust/>
- (10) 柿田川におけるオオカワヂシャの生態と駆除に関する課題
<https://www.rfc.or.jp/rp/files/25-20.pdf>
- (11) 柿田川名所湧水の道
<http://www.kakitagawa.net/app-def/S-102/kameya/>
- (12) 清水町観光案内所「わくら柿田川」
<http://www.kakitagawa-kanko.jp/>
- (13) 柿田川の自然 | 河川事業 - 国土交通省中部地方整備局
<https://www.cbr.mlit.go.jp/numazu/river/kakita-shizen/>
- (14) 国土交通省中部地方整備局 柿田川自然再生計画 33 p
https://www.cbr.mlit.go.jp/numazu/river/pdf/plan_kakitagawa_3.pdf
- (15) 【柿田川の河川環境の保全・再生目標】
https://www.cbr.mlit.go.jp/numazu/river/pdf/05shiryou_kentoukai-130226.pdf
- (16) 柿田川自然再生検討会「[柿田川保全ガイドライン](#)」21pp.
- (17) 同「[チラシ](#)」2pp.
- (18) 静岡県清水町の柿田川の YouTube 動画 数点(水中映像はやはり圧巻)
<https://www.youtube.com/@ShimizuTown>